



紹介する。

前項でテント場周辺のユキツバキ群落の消失を記したが、この宿泊所の建設にあたって、またもやユキツバキ群落が縮小されてしまった。次から次へとブナ-ユキツバキ群落が無残に破壊されていくことを残念に感じている。なぜ、長い時代を経て成立している生態系の歴史をいとも簡単に破壊するのか、関係する人々の無知、無神経さに対して憤りの気持ちで一杯である。

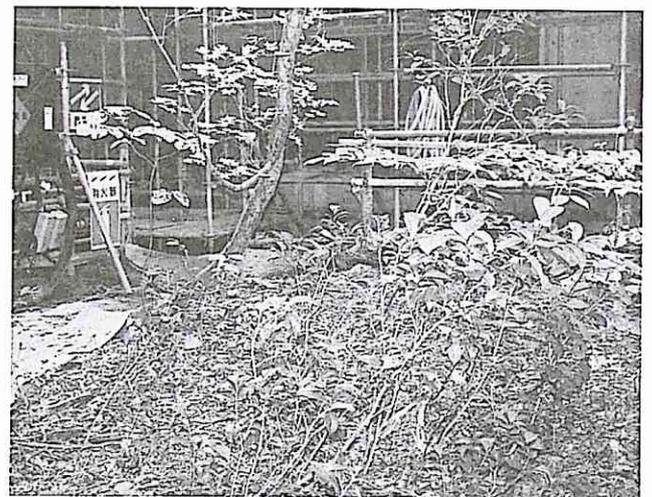
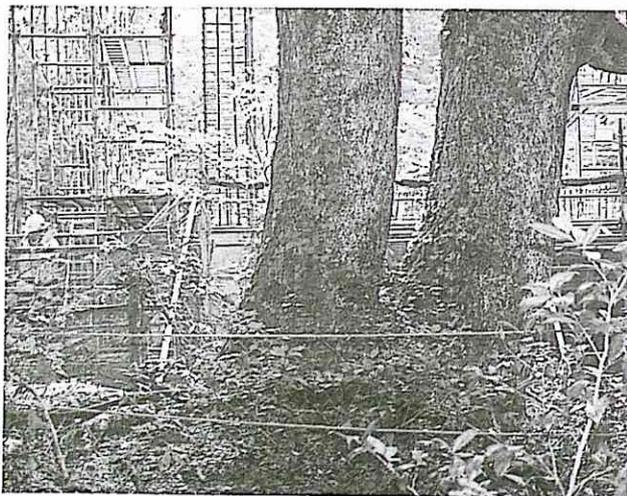
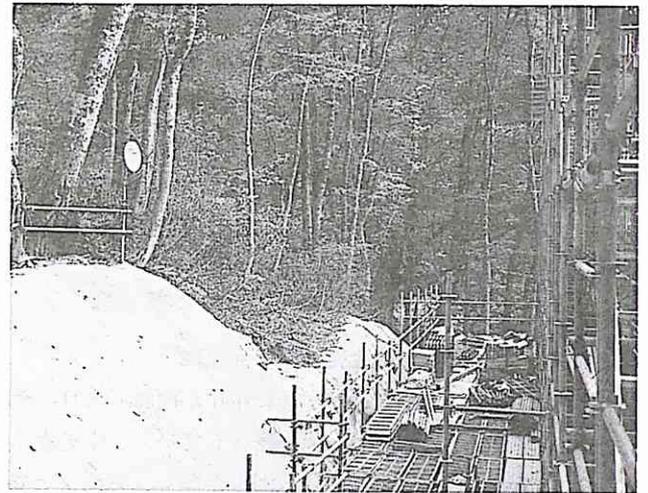
本誌でもしばしば指摘してきたが、県内におけるダムや道路の建設にあたっては、自然環境-生態系に十分に配慮した上で進めるべきである。これまでも建設に当たっては十分配慮していると、関係者が説明しているが、表面的である。例えば、建設に当たっては建設用重機の色はまわ

りの自然の色にあわせて配慮しているというようなことは、生態系の保護とは全く無縁なことで、配慮の観点が極めて表面的な代表例であろう。長い時代を経過して成立している自然の仕組みを壊すことのないような配慮であってほしい。広く関連する分野の多くの方々の意見を聞いた上で、着工に踏み切ることが肝要である。

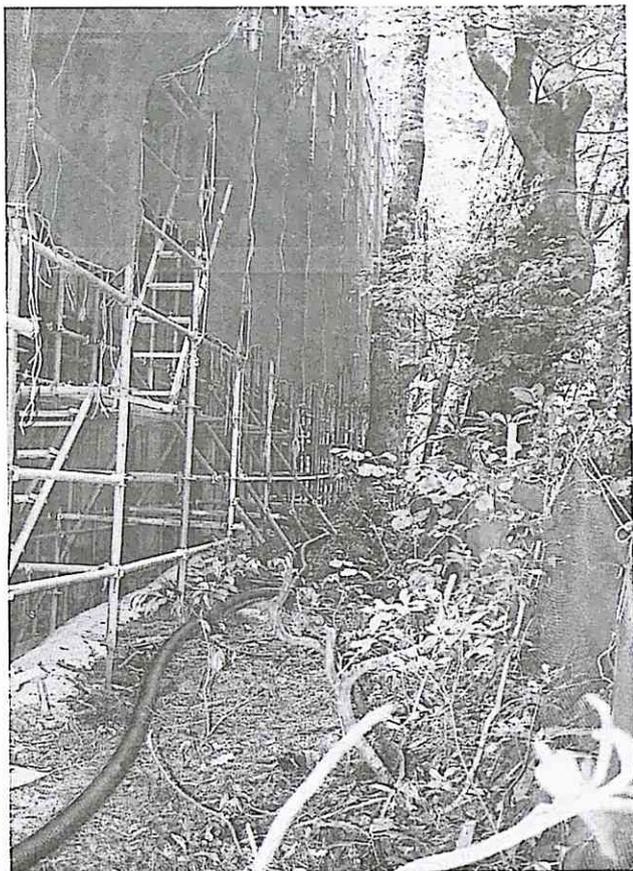
#### 新潟県（1987）ブナ自然林保護対策緊急調査報告書

丸山吉夫	全県ブナ林の概要	6-13
松井 浩	ブナ林の種組成	14-17
丸山幸平	ブナ林の構造・動態および伐採と再生	21-23
石沢 進	ブナ林の植物相	24-30
〃	胎内川流域	79-83

(写真) ブナ林の中に建設中の胎内宿舎とダム建設現場



ブナ林の中に建設中の胎内宿舎 2003 9 19



ブナ林の中に建設中の胎内宿舎 2003 9 19



ダム建設現場 2003 7 6

# 新 潟 日 報

2003年(平成15年)8月12日(火曜日)

## 日報抄

棚田は地下水を養い、地滑りを防ぎ、森を守る。コメ作りの経済合理性だけでは計れない役割を果たしている▼日本の原風景といわれ、都市住民との交流の場としても注目されるようになった棚田に逆風が吹いている。棚田学会が三日に東京で開いた討論会「市町村合併で棚田はどうなる」で、全国町村会経済農林部長の牛島正美さんらは危機感をあらわにした▼「近くに役場があつて住民と一緒に取り組んでこられたからこそ、人口減、高齢化の中でも棚田が守られてきた」「合併で辺境化が進む棚田は、地域共通の課題としてとらえられなくなり荒廃が進む恐れが強い」▼長野県栄村の高橋彦芳村長の発言が印象に残った。「棚田は自治体と地域共同体が有機的に結び付かないと、水の管理すらうまくできない。両者の関係が強力になり、山間地域の自治機

能を充実させるのなら合併もよい」。合併論議で最初に押さえねばならぬ出発点であろう▼平成の合併論議は、人口の規模が先行している。広大な面積に市街地と山村部を抱えることになる合併後の自治体の行政効率を決してよくなるはず、きめの細かい農山村経営は一層困難になると、高橋村長はみる。異論もあるだろう。問題は、こうした論議を深めずに進む合併は禍根を残すということである▼南魚沼沢町の住民投票で合併反対が半数を超えた。上田欽一町長は「きめ細かな行政サービスが受けられなくなるといふ不安が大きかったのではないかと分析する。魚沼産コシヒカリの産地である塩沢町では全水田面積の約16%を棚田が占めている。山間部の農民はどんな思いで一票を投じたのだろうか。

1 総合 12版

(昭和16年7月30日第三種郵便物認可)

(日刊)

能を充実させるのなら合併もよい」。合併論議で最初に押さえねばならぬ出発点であろう▼平成の合併論議は、人口の規模が先行している。広大な面積に市街地と山村部を抱えることになる合併後の自治体の行政効率を決してよくなるはず、きめの細かい農山村経営は一層困難になると、高橋村長はみる。異論もあるだろう。問題は、こうした論議を深めずに進む合併は禍根を残すということである▼南魚沼沢町の住民投票で合併反対が半数を超えた。上田欽一町長は「きめ細かな行政サービスが受けられなくなるといふ不安が大きかったのではないかと分析する。魚沼産コシヒカリの産地である塩沢町では全水田面積の約16%を棚田が占めている。山間部の農民はどんな思いで一票を投じたのだろうか。